



PORSCHE

12. Oct. 2017

Vol.163/17

## 富士山麓で展開する時速 300 km のタイトル争い

### FIA 世界耐久選手権 LMP1、第 7 戦（全 9 戦）、富士（日本）、プレビュー

ポルシェ AG（本社：ドイツ、シュトゥットガルト 社長：オリバー・ブルーメ）は、FIA 世界耐久選手権（WEC）第 7 戦（全 9 戦）に特別な思いを伴って参戦いたします。なぜなら 10 月 15 日に日本最高峰である富士山の麓にある富士スピードウェイで開催されるレースにおいて、最終戦を待たずにタイトル獲得が決定する可能性があるのです。このサーキットには、「スピードウェイ」の名に相応しく 1.5 km におよぶストレートが設定されています。空力関係のセッティングによっては、トヨタおよびポルシェいずれのル・マン・プロトタイプも 300 km/h の壁を突破する可能性があります。後半のタイトで曲がりくねったコースによって、セッティング作業が困難となり、微妙な調整が要求されます。完璧な形状を誇る標高 3,776 メートルの火山である富士山の麓の地域は、晩夏の温暖な気候もしくは予想しづらい秋の天候になると考えられます。

現在 159 ポイントでチャンピオンシップをリードしているアール・バンバー（ニュージーランド）／ティモ・ベルンハルト（ドイツ）／ブレンドン・ハートレー（ニュージーランド）組のポルシェ 919 ハイブリッドが 108 ポイントで続くトヨタ陣営の中嶋一貴（日本）とセバスチャン・ブエミ（スイス）より前でゴールすれば、新たなドライバーチャンピオンに輝くこととなります。で、それにが現世界チャンピオンであるポルシェ 919 ハイブリッド 2 号車のニール・ジャニ（スイス）／アンドレ・ロツテラー（ドイツ）／ニック・タンディ（イギリス）組は、現在 83 ポイントの 4 位です。ポルシェが富士で今シーズン 4 回目の 1-2 優勝を達成した場合、ポルシェは 3 年連続でマニュファクチャラーズの世界チャンピオンシップを獲得します。ただし、富士戦ではポルシェではなくホームのトヨタが本命です。WEC の全 9 戦中 6 戦終了時点で、ポルシェは 242 ポイント、トヨタは 168.5 ポイントとなっています。

LMP1 担当副社長であるフリッツ・エンツィンガーは、そのような「もしも」の可能性を受け入れません。「6 時間のレースでは、計算は役に立ちません。富士の長いストレートはエンジニア達にとって最後まで課題で、コース後半の曲がりくねった部分での混雑したトラフィックには常に高いリスクがつきまといまいます。私達は、両方のチャンピオンシップタイトル再防衛に向けて進んでいますが、油断はできません。現在までに、ポルシェ 919 ハイブリッドは 64 レースにおいて 59 回、完走を果たしています。常に距離を伸ばすことが鍵となります」

日本でのレースは現地時間の土曜日午前 11 時にスタートし、インターネットおよびテレビで世界中に放映されます。

#### ポルシェ 919 ハイブリッド

クラス 1 ル・マン・プロトタイプ（LMP1）は、フロントアクスルの制動エネルギーと排気エネルギーの 2 系統のエネルギー回生システムを備え、約 900 PS（662 kW）のシステムパワーを発生します。コンパクトな 2 リッター V4 ターボエンジン（ほぼ 500 PS/368 kW）がリヤア

クスルを駆動し、400 PS (294 kW) 以上を発生する電気モーターがフロントアクスルを駆動します。フロントブレーキおよびエグゾーストシステムで発生した電気エネルギーは、一時的に液冷リチウムイオンバッテリーに蓄えられます。

#### ポルシェ LMP チームのコメント

チーム監督、アンドレアス・ザイドル：「エアロダイナミクスの面では、富士スピードウェイはレースカーに矛盾した条件を突き付けてきます。1周 4.5 km のコース中、1.5 km は普通の直線で、ここでは空気抵抗を最小限に抑える必要があります。しかし、16 あるコーナーではダウンフォースが必要です。レギュレーションでは、1 シーズン中に 2 種類のエアロキットの使用が許可されています。ひとつはローダウンフォース(低空気抵抗)のル・マン・パッケージで、もうひとつはハイダウンフォースキットです。今回のレースに向けてはデータとシミュレーションを慎重に分析し、ハイダウンフォースキットを選びました。私達は規定の範囲内でこれをミディアム寄りのダウンフォースにセッティングします」

#### ポルシェ 919 ハイブリッド (カーナンバー1) のドライバー

ニール・ジャニ (33 歳、スイス)：「私達にとって、2017 年のアジアラウンド初戦は非常に困難なレースになるでしょう。先のオースチン戦ではトヨタが強さを取り戻しました。そしてトヨタは昔から自国でのレースでは好調であることが多いです。ストレートでは私達より彼らの方が速いと思います。2016 年は、予選と決勝のラップタイムが非常に接戦で、6 時間後には、3 メーカーのプロトタイプが 17 秒の間に次々にフィニッシュしました。話は変わりますが、サーキットから見る富士山は美しいですよ」

アンドレ・ロッター (35 歳、ドイツ)：「2003 年に、私は富士スピードウェイで人生が一変するほどの体験をしました。当時、私はフォーミュラ・ニッポンのテストを担当していて、その後 3 年間、御殿場に住みました。現在、私は全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦しており、東京に家があります。私は日本が大変気に入っているので、2012 年の WEC カレンダーに富士スピードウェイが組み込まれたときは本当に嬉しかったです。ファンの皆さんはすばらしく、知識も非常に豊富です。富士スピードウェイは、最高の景色に囲まれたすばらしいサーキットです。特にこのサーキットの 2 番 3 番の高速コーナーが好きです。残念ながら富士での LMP1 レースで優勝したことはありません。そろそろ流れを変えるときです」

ニック・タンディ (32 歳、イギリス)：「私にとって、富士スピードウェイは象徴的なサーキットで、日本にはこのような偉大なモータースポーツの伝統があります。世界選手権での富士戦はいつでも重要なレースです。もちろん、ファンの皆さんは非常に情熱的で、毎回大観衆になります。このクルマには『地元のヒーロー』であるアンドレも乗り込むので、ますます応援してもらえることを期待しています」

#### ポルシェ 919 ハイブリッド (カーナンバー2) のドライバー

アール・バンバー (27 歳、ニュージーランド)：「富士スピードウェイにはさまざまな思い出があります。2014 年には、カレラカップ アジアのレースで優勝しましたが、2015 年の WEC レースでは、アウディと接触して表彰台を逃しました。しかし、私にとって日本でのレースは楽しいもので、日本文化が大好きです。トヨタという強力なライバルのため、非常に厳しい週末を迎えることになると思いますし、高低のダウンフォースのバランスが大きく影響すると思います。富士スピードウェイで私が好きなコーナーは、中盤の大きな右コーナー、100 R です」

ティモ・ベルンハルト（36歳、ドイツ）：「日本のモータースポーツ文化とファンの皆さんの知識の深さは驚くべきものです。プレゼントをいただく機会も多く、私はそういうところが好きです。サーキットでは、トヨタと厳しい戦いになるでしょうし、富士でどの車両コンセプトがベストであるかが証明されること、および誰がサーキットのさまざまな条件のより優れたクリアポイントを見いだすかを目の当たりにするのがエキサイティングです。セクター1と2は非常に高速です。スタート／フィニッシュのストレートはシーズン中最長で、300Rも全開です。しかし狭いコーナーが連続するセクター3は、タイヤの摩耗という点でも非常に重要です」

ブレンドン・ハートレー（27歳、ニュージーランド）：「私達全員、再び日本でレースできることに喜んでいます。去年はトヨタが勝利し、今年も自国のレースで手強くなるという予感がします。私達は全力を出し切らなければならないでしょうし、シーズン5勝目を国に持ち帰らなければなりません」

スケジュール（現地時間）：

2017年10月13日（金曜日）

11:00-12:30、フリープラクティス1

15:30-17:00、フリープラクティス2

2017年10月14日（土曜日）

10:30-11:30、フリープラクティス3

15:00-15:20、LMP1 & LMP2 予選

2017年10月15日（日曜日）

11:00-17:00、決勝

TV およびライブストリーミング：

- 公式 WEC アプリの基本バージョンは無料でダウンロード可能で、ライブストリーミング／完全タイム対応バージョンに拡張できます（有償）。ピットからのライブのインタビューを含むライブストリーミングの音声は FIA WEC TV チームが担当します。

- WEC レースは、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア／ニュージーランド、北米／南米、中東およびアフリカ各国のさまざまな国際 TV チャンネルで観戦できます。

基本情報：

- WEC の効率規制は、1 周あたり消費できるエネルギーを制限しています。全長 4.56 キロメートルの富士スピードウェイでは、ポルシェ 919 ハイブリッドは 4.15 メガジュールのエネルギー一回生システムが発生する電力と、1.606 リッター（1.163 kg）のガソリンを使用できます。

- 通常のレース速度の場合、919 ハイブリッドは 37 周後に燃料補給が必要です。

- 燃料補給とタイヤ交換は同時に行うことが禁止されており、順に行う必要があります。タイヤ交換時に同時に作業できるメカニックは 4 名、1 回に使用できるホイールガンは 1 台のみです。これにより、例えば F1 より作業時間が大幅に長くなります。

- 通常、ドライバーはタイヤ交換が必要な場合のみ交代します。

- 使用できるタイヤのタイプは、3種類のコンパウンドのドライ用スリックタイヤ、オールコンディション用ハイブリッドタイヤ（ソフト）、およびウエット用タイヤです。予選および決勝を通して、ドライ用タイヤは1台あたり4セットが使用できます。これは、2016年シーズンより2セット減となっています。
- 富士スピードウェイには、右カーブが10個、左カーブが6個あります。
- 富士スピードウェイは1966年に開業し、2005年の全面リニューアルまで危険であると評価されていました。1976年と1977年には、F1グランプリが開催されました。1976年、ニキ・ラウダが激しい雨でリタイア、ジェームス・ハントが世界チャンピオンになりました。翌年には悲惨な事故が起きました。2007年と2008年のみ、新しいコースでF1が開催されました。
- スポーツカー世界耐久選手権では1982年から1988年まで富士戦が組まれていました。1983年、ステファン・ベロフがポルシェ956でこの1周4.360kmのサーキットでの最速ラップとなる1分10秒02を記録しました。
- 富士山は前回1707年に噴火した活火山です。富士山は標高3,776メートルで日本最高峰であり、神聖な山として信仰の対象となっています。
- 富士スピードウェイは、東京の南西約100kmの位置にあります。

#### 2016年富士戦レビュー：

- 2016年の予選では、ティモ・ベルンハルト／マーク・ウェバー組が2位。オーストラリア出身のウェバーは、この週末に同シーズン限りでプロドライバーから引退することを発表することに決めていました。彼らの919ハイブリッドの最速ラップ平均は1分23秒595でした。ニール・ジャニ／マルク・レーブ（ドイツ）組は、予選6位（平均1分24秒134）。予選での最速ラップはトヨタの小林可夢偉が記録しました（1分23秒239）。ポールポジションは平均1分23秒570でアウディが獲得しました。
- きわめてエキサイティングなレースの末、ベルンハルト／ハートレー／ウェバー組が3位でフィニッシュしました。デュマ／ジャニ／レーブ組は、5位でフィニッシュしました。常にドライの路面、気温20℃の条件で行われた244週のレースで優勝を飾ったのは、トヨタのドライバーであるマイク・コンウェイ／小林可夢偉／ステファン・サラザン組でした。

＜本件に関する読者からのお問い合わせ先＞  
ポルシェ カスタマーケアセンター 0120-846-911  
ポルシェ ホームページ <http://www.porsche.com/japan/>